

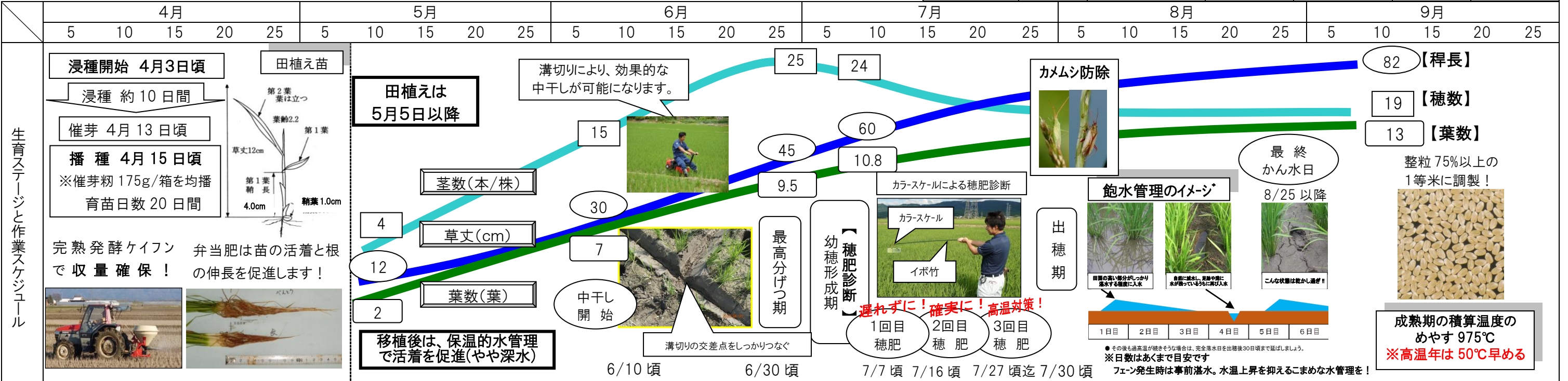


高温に耐えられる後期栄養確保・土づくりと基本技術の実践で品質をV字回復！
実需要に応える品質と安全性で信頼される環境保全型稲作「エコ・5-5 運動」をさらに前進！

【エコ・5-5 こしいぶき目標値:1等米比率90%以上、整粒歩合75%以上、玄米タンパク質6.2%】

■目標収量と収量構成要素

収量 (kg/10a)	穂数		1穂粒数 (粒)	㎡当り粒数 (千粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
	(本/㎡)	(本/株)				
540	350	19(60株セット)	80	28	88	22.0



管理のポイント	【4月】	【5月】	【6月】	【7月】	【8月】	【9月～10月】
水管理⇒	保温的水管理→活着後は浅水管理	小ヒビ中干し	飽水管理	洞割れ防止！		
管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> □完熟発酵ケイフン・牛糞堆肥・ケイ酸資材等で土づくり □田面の表面排水に努め作土深 15cmに耕起(回り耕) □基肥散布～代かきまでの期間をできるだけ短くする □浸種は4月3日頃から開始 □催芽はハ胸、発芽率80%以上で終了 □出芽長は1.0cm、緑化は1日長めで苗丈確保 □緑化期間中は苗ヤケに注意 □代かきは練り過ぎない(下層コロコロ土) 	<ul style="list-style-type: none"> □田植え4～5日前に弁当肥 □田植前に GP オリゼリテア箱粒剤を処理(JA 苗処理済み) □60株/坪以上、3～4本/株植え □深植え厳禁(植付深は2～3cmを目標) □田植後は、やや深水で苗を保温 □除草剤散布後7日間止水、ジャンボ剤水深6cm □活着後は、浅水管理で分けつ促進 □5月下旬に水更新・夜干し(ワキ対策) 	<ul style="list-style-type: none"> □6月10日頃を目安に中干し開始 □溝切り作業を実施 □本格的梅雨前に地固め □中干しは、小ヒビが入る程度 例年軟らかい場合は強めで地耐力確保 □6月下旬にケイ酸肥料を追肥 □中干しは6月末迄に終了 	<ul style="list-style-type: none"> □中干し後は飽水管理 □1回目穂肥は出穂23日前に8kg/10a □2回目穂肥は出穂14日前に10kg/10a □3回目穂肥は高温気象・葉色低下時に7kg/10a □低地力ほ場は味好2号・フェザ- MAX・みらい有機831追加施用で後期栄養確保 □いもち病・紋枯病の予防防除を実施 □中干し溝の類縁点検(秋長雨対策) 	<ul style="list-style-type: none"> □飽水管理継続、早期落水しない □フェン予想時は事前に深水湛水 高温時は水温上昇を抑える水管理 □出穂後10日間の高温は洞割れ危険信号 □クサネム等の雑草は抜き取る □最終かん水の目安は8月25日以降 □スタークルの適期散布でカメムシ防除 	<ul style="list-style-type: none"> □刈取適期予測を参考に初黄化率85～90%を確認し刈り取る □高温・フェン時は洞割れに注意し、常温通風乾燥で水分15%に仕上げる □選別網目1.9mm(推奨) □稲わら・もみ殻すき込み+土づくり □10月中旬迄の好天日に5～10cm浅うち(稲わら・初がらの腐熟促進を目的とした場合に限り、石灰窒素の施用は可。ただし、県認証の場合は使用不可)

■使用肥料と施肥の目安

区分	肥料名	使用基準	10a当り施用量			
			砂質	中間	粘土質	
土づくり	イセ有機(完熟発酵ケイフン)	選択	75kg	75kg	45kg	
	牛ふん堆肥、豚ふん堆肥		0～500kg			
	①みつパワー②ようりんケイカル③ニューミスター④マルチサホトFe⑤農カアップ		①60～120kg ②120～160kg ③30kg ④40～60kg ⑤60～100kg			
	育苗		稚苗苗代配合	30g/箱×18箱*		
	中苗苗代配合		35g/箱×23箱*			
田植前追肥	くみあい液肥2号	いずれか	270g(18～23箱)*			
	べんとう肥	1資材	360g(18～23箱)*			
基肥	味好2号、フジメレット731、みらい有機831	選択	0～20kg	-		
	越後の輝き有機50元肥 又は けい酸入りエコ5-5専用元肥	いずれか	30kg*			
	フレバ-ベスト734		42kg*			
ケイ酸肥料追肥・根活性	スパー-シリカ、けい酸加里プレミア34、ウオター-シリカ、ファイ-アップ	選択	15～40kg	(ファイト-アップ500g1袋10錠)*		
穂肥	味好2号、フジメレット731	出穂23日前頃	20kg	0～20kg	-	
	フェザ- MAX、みらい有機831	出穂3日前迄	15kg	0～15kg	-	
	けい酸入りエコ5-5専用穂肥	出穂23日前頃	穂肥診断により8kg			
		出穂14日前頃	原則10kg			
		出穂3日前頃迄	高温・葉色低下時7kg	合計25kg		

■使用可能な農薬と使用回数 決められた農薬を予防重点で使用してください。

区分	農薬名	使用	使用回数の制限
種子病害の予防剤	タフブロック	必須	-
初期害虫・いもち病の予防剤	GP オリゼリテア箱粒剤	必須	1回(JA 苗処理済)
水田除草剤	一発処理剤	必須	いずれかの剤型1回
	カウンスルエナジー 1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ		
広葉雑草中期除草剤	バサグラン 粒剤・エア-1 キロ粒剤・液剤	選択	いずれかの剤型1回
	いもち病の防除	ブラシンフロアブル・粉剤 DL・ゾル	選択
カメムシ類の防除	スタークル液剤 10	必須	いずれかの剤型1回
	スタークル 粒剤・豆つぶ		
稲こじ病防除剤	ドイツホルド-A 又は Zホルド-粉剤 DL	選択	いずれかの薬剤1回
紋枯病防除剤	バリダシン液剤5・粉剤 DL・エア-	選択	いずれかの剤型1回
いもち病防除剤	カスミン液剤	選択	1回

※農薬を使用する際は、必ず最新の使用登録内容を守ってください。(農薬確認令和6年2月14日)
※特に砂質圃場では基肥や穂肥に有機100%肥料を補完してください。

本田初期害虫・イナゴ・いもち病は「GP オリゼリテア箱粒剤」で予防を徹底！ 農薬が育苗ハウスに残留しないよう注意願います。

除草効果を高めるため、畦畔の漏水防止と代かき時の田面均平化に努め、移植後は除草剤の適用条件内で早めに処理しましょう！

スタークル共同防除と雑草管理で斑点米カメムシの発生を防ごう！

- 注意事項■
- 生産工程管理において、著しくJAの栽培指導を逸脱した場合は、「JA米」としての取扱いをしません。
 - 栽培管理における各作業や、肥料・農薬の使用日・使用量等は「栽培管理記録簿」に記載し、指定された期日までに必ず提出して下さい。
 - 「栽培管理記録簿」とあわせて、種子の保証書や生産資材の購入伝票を保管してください。
 - JA米としての要件は、JAと出荷契約を締結、種子更新100%、2等以上に格付けされた米穀、栽培管理記録簿を確認した米穀、検査時水分15.5%以下です。
 - JA米とJA米以外の米穀は区分して収穫・出荷をお願いします。
 - JA米として出荷された米穀は、JAでの確認後、JA米印が押印され、JA米以外の米穀と区分して扱われます。
 - なお、JAの確認により、JA米の要件を満たさないと判断された場合は、JA米として流通されません。

*:上限値。但し、基肥量が上限値未満の場合(分施・全量基肥肥料とも)は、化学合成窒素成分の残量相当量を穂肥として追加施用することが可能です。詳細な施肥量はお近くの営農センターに相談してから施用して下さい。